

1月23日（日） ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 12章9節～21節 （新約 21頁）

メッセージ 「イエスが大切にしたこと」

人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。
（マタイによる福音書 12章12節）

（1）本日は九州教区「性差別を考える日」です。長年、性差別によって女性たちの権利は制限され、搾取され、そのいのちが損なわれてきました。そのことに気づき、自らの痛みと向き合いながら改善を求めた人たちもいましたが、キリスト教会はその声から目をそらしてきたばかりか、性差別を再生産し続けて来ました。その結果、九州教区で痛ましいセクシュアル・ハラスメント事件が起きた時、九州教区は被害者の訴えと正面から向き合うことが出来ませんでした。その反省に立ち、また、セクシュアル・マイノリティからの問いかけもあり、九州教区はそれまで取り組んできた「女性の日」を「性差別を考える日」とし、毎年1月第4主日を特に性差別と向き合う日と決めました。私は性差別と向き合う時、自分は何を大切にするのかと問われる経験をしてきました。本日の箇所を通して、ではイエス様は何を大切にされたのか共に考えたいと思います。

（2）先週に引き続き、本日も「安息日」がテーマとなります。先週の箇所、安息日の厳守を求めるファリサイ派の人たちはイエス様に厳しく反論されました。その様子を苦々しい思いで見ているであろう人々は、会堂に入ってきたイエス様を訴える口実を得ようと、他の人々がいる前でイエス様に尋ねました。「安息日に病気を治すのは、律法で許されていますか」。その場所に片手が不自由な人がいました。当時

の律法理解を考えるなら、あえて安息日にこの人をいやす必要はないでしょう。イエス様がこの人をいやしたなら、イエス様は律法をないがしろにしていると訴える口実が出来ます。しかし、もしイエス様が今日は安息日だから明日にしようと言ったなら、では弟子たちが安息日に行った行為をなぜとがめなかったのかと反論することが出来ます。罫にかけようとしたのです。

するとイエス様はこう言われました。大切な財産である一匹の羊が、もし安息日に穴に落ちたとして、今日は安息日だからと手で引き揚げない者はいない。「人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている」（12節）。そしてイエス様はそこにいた手が不自由な人の手を癒されました。イエス様はご自分が訴えられることが分かっているながら、安息日の厳守よりも大切な事、もっと言うなら自らの保身よりも大切な事、苦しむ人の痛みを取り去ることを選ばれました。

（3）イエス様が行われたことは、安息日の本来の意味からすると間違った選択では無いと思います。しかし、ファリサイ派の人たちは訴える口実が出来たと、会堂の外に出てイエス様を殺す相談を始めました。イエス様の十字架への歩みが始まったのです。私はイエス様が大切にしたことを、性差別を考える日にあたって思い巡らせたいと思います。（多田玲一牧師）